

学校関係者評価報告書

学校法人 麻生塾
麻生工科自動車大学校

目 次

I. 学校関係者評価の概要と実施状況	- 3 -
1. 学校関係者評価の目的と基本方針	- 3 -
2. 学校関係者評価委員名簿.....	- 3 -
3. 学校関係者評価委員会の実施状況	- 3 -
4. 学校関係者評価委員会の実施方法	- 4 -
5. 学校関係者評価（自己評価結果）の評価の仕方	- 4 -
II. 学校関係者評価委員会報告.....	- 5 -
1. 重点項目について	- 5 -
2. 基準項目について	- 6 -

I. 学校関係者評価の概要と実施状況

1. 学校関係者評価の目的と基本方針

1) 目的

①卒業生、関係業界、職能団体・専門分野の関係団体、高等学校、保護者・地域住民などの学校関係者が、麻生工科自動車大学校の自己点検・評価結果を評価することで、自己評価結果の客観性・透明性を高める。

②学校関係者から、学校運営・教育活動の現状における課題について助言を得ることで、学校運営の継続的な改善を図る。

2) 基本方針

学校関係者評価は、自己点検・評価報告書を基に「専修学校における学校評価ガイドライン」に則って実施することを基本方針とする。

2. 学校関係者評価委員出席者名簿

区分	氏名	所属(役職)
業界関係者	市川 利治	福岡トヨタ自動車株式会社 (常務執行役員)
業界関係者	堤 直樹	福岡トヨタ自動車株式会社 (人事部長)
業界関係者	小林 丈郎	ダイハツ工業株式会社 (主査) オンライン出席
高等学校	佐伯 道彦	福岡工業大学附属城東高等学校 (校長)
地域住民	村上 伸二	東比恵2丁目町内会 元会長
卒業生	杉本 誠	平成22年度 2級自動車整備科 卒業生
卒業生	武田 真秀子	平成23年度 1級自動車整備科 卒業生
保護者	古田 夏子	1級整備科 保護者 オンライン出席

※区分別、五十音順、敬称略

3. 学校関係者評価委員会の実施状況

実施日時：2021年8月19日(木) 15:00 ～ 16:30

場 所：麻生工科自動車大学校 ものづくりスクエア

4. 学校関係者評価委員会の実施方法

学校関係者評価委員の皆さまに、2020年度の実績に対する自己点検評価の結果を学校から報告し、自己評価結果に対する意見をいただく。

5. 学校関係者評価（自己評価結果の評価）の仕方

2020年度の自己点検・評価報告書に基づき、基準項目の自己評価結果および課題・解決方向について、下記のポイントに留意しながら評価を行った。

- (1) 自己評価結果の内容が適切かどうか
- (2) 今後の解決方向が適切かどうか
- (3) 学校の運営改善に向けた取り組みが適切かどうか
- (4) その他、学校の運営に関する助言

Ⅱ. 学校関係者評価委員会報告

1. 重点項目について

【取り組み状況について】

- ① 革新する自動車技術を見据えた授業の見直し及び順次性のある授業の体系的な配置。
カリキュラムは年度開始前に各学科で検討し修正しながら実施している。
カリキュラムツリーやカリキュラムマップの作成については担当者を明確にし着手することができた。
- ② 資格試験および合格率の向上と取り組みの成果を上げる
国家1級自動車整備士試験において近年の傾向を分析し、読解力に重きを置いた指導及び対策問題を展開した。
今年度はコロナの影響で、オンライン授業となったが、集計システムの活用などを図り、個人の理解度を把握し、対策を進める事で昨年度と同水準の理解度を維持出来ている。
- ③ 留学生に対する相談体制の整備
教務にて留学生対象の在校生アンケートを実施した。今後はアンケート取得も継続して行い、取得した意見を基に留学生の就学・生活環境の整備を図っている。
グループ内の留学生で構成する「留学生の会」を発足し、より意見を出し合う場を設けた。

【委員からの意見】

- ・留学生の受け入れには、様々なリスクが伴うと思う。管理体制や制度をさらに強化し、リスクヘッジを行っていただきたい。

【成果と課題】

- ① 革新する自動車技術を見据えた授業の見直し及び順次性のある授業の体系的な配置。
2020年4月の法改正（特定整備）に伴い、カリキュラムにおいても急遽それに準じた内容を取り入れた。
また、国の脱炭素化方針の発表を受け、業界団体などの意見を反映させる必要性が出てきた。
- ② 資格試験および合格率の向上と取り組みの成果を上げる。
昨年課題となっていた教員のスキル向上については研修機会の方が得られにくい環境下にあった為、次年度以降の課題として取り組みを図る。
- ③ 留学生に対する相談体制の整備
2020年はコロナの影響もあり、アルバイトが行えず生活難に陥った留学生も多数発生した。
これに対し、麻生専門学校グループにて食料品・物資の配布など救援策を施した。
しかしながら学費や生活費で苦しむ留学生も多数在籍している状況にある。

【改善の方法】

- ① 革新する自動車技術を見据えた授業の見直し及び順次性のある授業の体系的な配置。
法令改正に伴いカリキュラムツリー、カリキュラムマップを一部見直し、完成を目指す。
- ② 資格試験および合格率の向上と取組みの成果を上げる。
国家1級自動車整備士試験について、近年国家試験の状況に関し、他校へのヒアリングや傾向分析した上で検定対策資料の改定を定期的に施し、整備知識（診断能力・新技術）について理解の向上を進めると共に学生のモチベーションアップを図っていく。
- ③ 留学生に対する相談体制の整備
国際交流センターと連動し、適宜課題を吸い上げ、改善を図っていく。

2. 基準項目について

基準 1 教育理念、目的、育成人材像

学校関係者評価結果：適正

【取り組み状況について】

学校として教育に関する内部質保証のためのPDCAサイクルの起点として機能するよう、学生が身に付けるべき資質・能力の目標を明確化する為に「学校の教育理念」の明文化が求められるので「学校の教育理念」を本部と共同で作成している。学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図る為、Webサイトにて社会に公表した。

【委員からの意見】

- ・各理念等を適切に策定できている。ステークホルダーに対して、Web等で適切に周知を行えていると思う。
 - ・経営戦略や組織の根幹である理念が組織全体に浸透していくことで、組織としての力が強まります。
- 今後は学校教員や職員への各理念・目的の浸透にご尽力いただきたい。

【課題】

特になし

【改善の方法】

「学校の教育理念」について、学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図る為、「法人の理念」「学校の教育理念」「学科の教育目的・育成人材像」を本部と連携を図った上でWebサイトにて社会に公表している。変更等があれば随時対応する。

基準 2 学校運営

学校関係者評価結果：適正

【取り組み状況について】

- ・麻生塾本部の運営方針を共有策定し周知している。
- ・学校業務については学内の事務局の他にグループ本部内に人事、経理、留学生窓口など様々な支援組織が設置され、十分に機能している。また、事務職員は意欲・資質の向上を図るために本部及び外部主催の研修に計画的に参加している。

【委員からの意見】

- ・「運営方針」「人事制度」「作業環境」などは、仕事環境に不満をもたらす要因であり、現状の規程と実態との乖離があるのであれば早急に改善が必要である。
- ・現実性のある制度のもとで業務が遂行されることで、従業員の不満を低減させ、適正・公正に評価を行うことでモチベーションを向上させるという2つのバランスが重要であると思うので、改革にご尽力いただきたい。

【課題】

新型コロナウイルス感染予防対策に伴い、学生管理や遠隔授業の準備など新たな業務が増えた。

【改善の方法】

今年度新型コロナウイルス感染予防対策として構築した学生管理方法や、遠隔授業コンテンツを次年度活用し、円滑な学校運営を行う。

基準 3 教育活動

学校関係者評価結果：適正

【取り組み状況について】

- ・学則及び成績評価、進級および卒業に関する規定内で教育目的および育成人材像に基づき進級・卒業要件を明示した上で、学校構成員に周知している。また、成績評価及び卒業・進級条件についてはHPを通じて社会に公表した上で定期的に検証を行っている。
- ・カリキュラム及びシラバスにてカリキュラムポリシーを明示し学校構成員に周知している。また授業科目等の概要においてはHPを通じ社会に公表し、定期的に検証を行っている。

【委員からの意見】

中項目 3-1

・ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーの二つは、卒業までに学生が身に付けるべき資質・能力と、それを達成するための具体的な教育課程の編成・実施、学修成果の評価の在り方等を示すものであり、その一体性・整合性が大切なため、整合性の取れたポリシーの策定をお願いします。また、貴校ではカリキュラムポリシーを学科ごとに策定しているため、ディプロマポリシーについても学科ごとに策定することでより一層整合性の強いポリシーが策定できるのではないかと思います。

中項目 3-2

・特に企業等との連携は、業界の特徴や求める人材などのリアルタイムな情報を把握する上で評価できる取り組みである。カリキュラムマップについては、卒業までに身に付けるべき能力と、学習成果の繋がりが目視化でき、貴校カリキュラムポリシーにある、「体系的な学習」に大きく寄与するため、作成を行って頂きたい。また、コロナ禍における教育環境の変化に順応した、授業内容やカリキュラムの策定にもご尽力いただきたい。

中項目 3-3

・オンライン授業などで授業形態が変化してきている中、結果のフィードバック及びコーチングは教育の質に関わる大切な要素であるため、運用形態の見直しと整備を行い、改善にご尽力いただきたい。

中項目 3-4

- ・しっかりと標準化が行われており、適切な運用が行なえている。

【課題】

カリキュラムポリシー同様にディプロマポリシーも学科別に策定をしてはどうかという意見が出ている。

【改善の方法】

社会や時代背景により育成する人材像は流動的に変化する為、学校関係者評価委員や教育編成委員にて企業・業界団体の意見を取り入れ、継続してニーズに合った教育課程を編成・実施していく。

ディプロマポリシーの学科別策定については学内で協議を図る。

基準 4 学修成果

学校関係者評価結果：適正

【取り組み状況について】

- ・年度開始前に学科会議で前年度の結果や評価を考慮し、学生に関する目標設定を行い、キックオフ会議で教職員が情報共有、周知できるようにしている。
- ・卒業生の専攻分野における社会的評価については毎年企業に入社後1、3年目の卒業生を対象としたアンケートを実施し適応性や効果を確認している。また、卒業年次の学生を対象に早期離職防止セミナーを実施し就業前のキャリア形成を図っている。

【委員からの意見】

- ・進路の決定率から見ても、貴校の就職支援体制は成熟しつつある印象であり、とても評価できる。今後はオンライン授業化に伴う、授業形態の変化について、適正に評価し、改善を実施頂きたい。
- ・エンジンやシャシ構造等多様な知識が必要である整備士の学習においては、体系的な学習が、学習効率に大きく影響すると考えられる。カリキュラムや対策問題を検討して頂き、体系的なカリキュラム作成を行っていただきたい。
- ・学生の多様化が進む中、卒業生の卒業後のキャリア形成について意見聴取をすることは、在学中における就職支援のありかたを評価する上で大変重要であると考えます。今後は卒業後の聴取を行ってほしい。

【課題】

- ・国家1級自動車整備士試験についてはここ数年出題傾向が変わっており、合格率が安定していない状況。さらなる傾向問題対策を実施し、改善を図る。
- ・内定後、整備士の仕事内容についての理解不足による早期退職がみられる。

【改善の方法】

- ・近年の傾向を分析した上で対策を施し、整備知識（診断能力・新技術）について理解の充実を行うと共に学生のモチベーションアップを図る。
- ・早期離職防止の取り組みとして企業や業界団体からの講演や研修会の機会を設けるなど学生の職業観の醸成を図る。

基準 5 学生支援

学校関係者評価結果：適正

【取り組み状況について】

- ・学生の修学支援や進路支援については担任及び就職専任スタッフにより適切な支援を行っている。
- ・学生の健康管理を担う体制として定期的な健康診断の実施やAEDの設置に加え、学生の生活環境への支援として直営・提携寮の設置を行っている。
- ・保護者に関しては担任を軸に保護者会や3者面談などを実施し、連携を取っており、卒業生・社会人に関しては校友会組織の設置や再就職支援、国家試験対策といった体制を整備している。

【委員からの意見】

- ・就学支援・進路支援について、適切な運用が行なえていると思う。今後も学生の多様化は進んでいくと思われるため、評価と改善を行い、より良い支援体制構築を行ってください。
- ・学生の多様化が進む中、カウンセラーの設置を行っていることはとても評価できる。

【課題】

成績優秀者を対象とした学校独自の学費免除制度の告知タイミングが学期末近くとなっており、学生のモチベーションアップにおいては効果的に運用できていない。

【改善の方法】

制度自体の存在や対象学生を学内全体に周知する。報奨内容についてはより学生のモチベーションアップにつなげられるものを検討する。

基準 6 教育環境

学校関係者評価結果：適正

【取り組み状況について】

- ・法令に則り、教育上の必要性に対応した施設・設備を整備し、学校設備・教育備品・教具の一覧表及び点検表にて管理体制の組織図維持・管理、安全・衛生を確保している。
- ・図書室・図書コーナーについては5Fのリフレッシュルームに図書コーナーを設け、一部資料を貸し出している状況。

【委員からの意見】

中項目 6-1

・早い速度で変化していく自動車技術に対応するためには、定期的な施設・設備の整備が肝要である。経営上難しい点もあると思うが、積極的に環境の整備を実施していただき、より良い学習環境を学生に提供いただきたい。

中項目 6-2

・卒業後のキャリアの方向性を決める上で、研修旅行などの研修の意義はとても大きい。コロナ禍での実施は、難しい点も多くあると思うが、なんとか実施できるようにしていただきたい。

【課題】

学内の図書室・図書コーナーの現状を調査した所、開校当初に設置した図書室が活用されておらず書籍・資料が分散している状態にあり、図書室の機能が不十分。

【改善の方法】

学内の図書室・図書コーナーについては所定の場所を検討の上決定する。また保管する書籍については保管対象の書籍を新規購入し既存のものを選別する予定。

その他施設設備についても実践的な授業を実施できるよう改善を検討する。

基準 7 学生募集

学校関係者評価結果：適正

【取り組み状況について】

- ・入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）を策定し、募集要項やホームページを通じて学校構成員（教職員および学生等）に周知し、社会に公表している。
- ・募集活動においても、パンフレット、ホームページを通じ検定合格状況、就職状況などの教育成果を正確に伝えている。

【委員からの意見】

- ・適切な運用が行なわれているように思う。
- ・留学生など多様化が進む中においても、アドミッション・ポリシーに沿った正当・公正な選考を実施することが重要である。
- ・随時、選考方法の評価と改善を行い、適切な選考を行ってほしい。

【課題】

留学生対象の新設学科の設置に伴い、多様な学生の受験が見込まれる為、入学者選抜方法については必要に応じて見直しを図る必要がある。

【改善の方法】

留学生を募集している学校（グループ校及び各種専門学校）の情報を収集し、アドミッション・ポリシーに則した募集活動を行っていく。

基準 8 財務

学校関係者評価結果：適正

【取り組み状況について】

- ・教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財政的基盤を確立している。
- ・予算計画は有効かつ妥当なものとなっており、予算執行に伴う効果を分析・検証する仕組みの確立がなされている。また、財務情報公開の体制を整備し、適切に公開している。

【委員からの意見】

- ・適切な運用が行なわれているように思う。
- ・永続企業体にするためには、財務基盤の適切な運用が必要不可欠であるため、今後も継続していただきたい。

【課題】

現状特になし

【改善の方法】

今後も継続して財政的基盤を確立していく。

基準 9 法令遵守

学校関係者評価結果：適正

【取り組み状況について】

- ・法令等遵守に関する啓蒙や教育が教職員に対して適切に実施され、教職員は法令遵守を理解し、規定に従っている。
- ・法令改正等に応じた法令等遵守規程類の見直しが適時適切に行われ、法令等遵守義務や違反に対する処分等が規程の中で明確にされ、問題発生に対応する通報システム等の体制も整っている。

【委員からの意見】

- ・コンプライアンス遵守を理解し、適切な運用が行なえているように思う。
- ・法令遵守教育については、定期的に行っていただき、理解を深めていただきたい。

【課題】

現状特になし。

【改善の方法】

教職員が定期的に法令遵守に関する研修会へ参加し、全教職員の理解を深めていく。

基準10 内部質保証

学校関係者評価結果：適正

【取り組み状況について】

- ・学校教育、学校運営について、自己点検・評価を実施し、重点項目を定め課題解決に取り組んでいる。
- ・学校関係者評価の実施体制を整備し、学校関係者評価を実施し、意見を集約し、改善の取り組みを行っている。
- ・自己点検・評価及び学校関係者評価の結果をホームページ上で公表し、社会に対する説明責任を果たしている。

【委員からの意見】

- ・制度に基づいて、適切に運用されているように思う。
- ・変革（改善の取り組み）を行う上では、組織メンバー全体が問題を共有することが変革のスタートであり、最も重要なポイントである。
- ・定期的に自己点検・評価の内容を伝える「場」を設け、組織全体で問題解決に向かって取り組んでいただきたい。

【課題】

自己点検・評価の重点項目については教職員全体への共有が年度初めのみとなっており、教職員間で目標意識の差がみられる為、効率的に改善を行えていない。

【改善の方法】

自己点検・評価の重点項目については改善策の実施状況の中間・結果を全教職員に全体会議の中で定期的に共有する。

基準11 社会貢献・地域貢献

学校関係者評価結果：適正

【取り組み状況について】

- ・公共的な機関として、日本赤十字等 団体への支援や、国内外からの教育施設見学受入など積極的に社会貢献を進めている。社会貢献・地域貢献を行っている。
- ・1級自動車整備科においては3年次に、学生の地域貢献として、教育内容を生かし、小学生を学校に招いての職業体験イベントを開催している。

【委員からの意見】

- ・小学生対象の整備士の職業体験を実施されていることは、社会貢献や学生のコミュニケーション力向上の面において評価できる。学生全体でも献血など実施しているので地域貢献度は高いと感じる。
- ・コロナ禍での実施は、難しい点も多くあると思うが、なんとか実施できるようご尽力いただきたい。
- ・コロナ禍の中2021年度も困難な状況と思われませんが、職業体験イベントの継続をよろしく願いいたします。
- ・地域、校区のイベントも今年度はほとんどが中止となっています。落ち着いたら交流などの検討も進められたらいいと思います。

【課題】

ボランティア活動の中で単位認定されているものとそうでないものがある。

【改善の方法】

対象範囲を広げるなど新たな取り組みを常に検討していく。

基準12 国際交流

学校関係者評価結果：適正

【取り組み状況について】

- ・留学生の受入れ、在籍管理等において適正な手続きを行っている。
- ・留学生に対する相談体制として、各クラスに担任及び担当主任が在籍しているものの情報収集するツールとしては全学生を対象に在校生アンケートを実施しているにとどまっている。
- ・2020年度はコロナ禍の影響で、海外留学プログラムを実施することができなかったが、個人面談等を頻繁に実施し、学生・保護者の要望（復学・留学待機）をしっかりと把握。心配や不安を抱かせないよう、担当者と学生・保護者とのしっかりとコミュニケーションを取るよう努めた。

【委員からの意見】

- ・相談体制として担任制を採用していることは、評価できるが、留学生の数が増えるほど、担任の業務負担の増大が考えられる。担任の業務負担を考慮した、体制の整備を図っていただきたい。

【課題】

教務にて留学生、日本人を特に区分せず、全学生を対象に在校生アンケートを実施しているにとどまる。

【改善の方法】

次年度は留学生クラスも増え、留学生在校生も増えるので、これまで実施していた既存のアンケートと併せて留学生在校生向けに満足度調査アンケートを実施する。